

令和5年10月21日 開催

聴くオフ・ミーティング報告書



テーマ「気候変動対策、待ったなし」
～区民参加によるゼロカーボンシティ杉並を考えよう～

区では、区政への区民参加の仕組みづくりを進めています。その取組の一つとして、身近な行政課題について、区長と区民が直接意見交換をする区政を話し合う会「聴くオフ・ミーティング」を開催しています。

令和5年10月21日は、「気候変動対策、待ったなし」をテーマに、一般公募と無作為抽出した2000名の区民の中から参加していただいた38名の方と、話し合いました。



区長から

待ったなしの気候変動対策を区全体で取り組んでいくために、区民ができること、区ができること、そして区と区民と一緒にできることなどについて、皆さんの自由なご意見や疑問などをお出しください。いただいた様々なご意見は、私たちにとって全てが学びです。本日は、皆さんと一緒に楽しく話し合いたいと思います。



担当課からの説明



気候変動による異常気象はすでに地球規模で進行しており、猛暑や豪雨など温暖化の脅威は一人ひとりの暮らしや命に関わる問題です。東京都における本年8月の日最高気温の月平均は34.3度と観測史上最高となるなど、私たちの身近なところでも温暖化の影響を感じます。

このような中で、区は令和3年11月に2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「2050年ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言し、区民や事業者の皆さんとともに脱炭素に向けた取組を強力に進めていく決意を表明しました。そして、本年4月には杉並区地球温暖化対策実行計画を策定し、二酸化炭素排出量の削減目標を示しながら具体的な取組をまとめるとともに、区が区内の一事業者として取り組む温暖化防止や環境配慮についての目標・内容等を定めています。この計画に基づき、太陽光発電システムや家庭の窓断熱改修等の助成による再生可能エネルギー利用及び省エネルギー対策の促進や、グリーンスローモビリティ等の環境負荷が少ない移動手段の拡充、交流自治体とのカーボンオフセット事業等様々な取組を進めています。

そして、令和6年3月からは、区民参加による気候変動対策を促進する新たな取組として「杉並区気候区民会議」を開催します。気候区民会議とは、無作為抽出で選ばれた区民が、気候変動対策に関して有識者から情報提供を受けながら参加者同士で議論を重ねる会議で、区民の意識醸成や行動変容を促すとともに、会議でまとめられた意見提案を区の施策に活かしていくことを目的としています。杉並らしい気候区民会議の開催に向けて、皆さんからもたくさんのご意見をいただきながら進めてまいります。





第1回 10:00~12:30

第2回 14:00~16:30

全体トークでは半円状の車座になり、参加者が一人ずつ自分の意見を発表した後、フリートークを行いました。以下は全体トークで出た主な意見です。

- 参加者 例えばフードロス減らす、洋服の回収・リユースなど、「サーキュラーエコノミー（循環経済）」は、気候変動に向けて子供たちも含めて取り組める。
- 参加者 温暖化ガスの排出を減らそうと言って、何トンと言われてもピンと来ない。排出量を可視化し、例えばレジ袋をやめたり、エアコン設定を変えるとどれだけ効果が出るのか、杉並区の今日の排出量は何トンでしたなど、駅前やコンビニで確認できれば、もう少し頑張ってみようと思える。
- 参加者 例えば太陽光パネル、断熱の施策など、区民が区の助成を活用するには、行政や事業者がメリットをしっかりと伝えることが必要。
- 参加者 日頃、温暖化に対して不安や危機感を感じながら生活しているので、まずは実情や対策を知ること大切。
- 参加者 これから大人になる子供たちに、行動することが排出量削減になるということをみんなで考えてもらう。環境問題についての取組にもっと子供や学生たちを巻き込んでいけるとよい。
- 参加者 屋上に畑や木を植え、まず緑を増やす。あとは自転車利用の促進。排気ガスを出さないし、健康にも良い。ゴミ問題も個人レベルでは何が正解かわからないので、区がリーダーシップをとってSNSなどで発信してほしい。
- 参加者 区が生ごみの堆肥化にダイナミックに取り組めば、ごみの削減、税金の削減にもなる。循環化する社会を目指せる。
- 参加者 できることから省エネにコツコツと取り組むしか



ない。窓の断熱などを少しずつやりながら、省エネで温室排出量の削減に貢献したい。

- 参加者 次世代の意識がとても重要。学校教育で環境問題を扱うときに、楽しみながら幼児や児童が参加できるイベントが実施されると、親子共に意識が高まる。
- 参加者 家庭の努力が今後大事になってくる。できることは限られると思うが、区の助成を活用し、一歩踏み込んだ省エネ創エネを進めていけるとよい。
- 参加者 杉並が良いと思うのは緑があること。区が緑は減らさず、増やすことを推進することがまちづくりにもなり、気候変動対策にもなる。
- 参加者 私が考えたテーマは「杉並区全体で年末年始は休む」。今、年末年始でもスーパーは開いていて、私たちは買い物しているが、それは当たり前ではなくスーパーも休むことで、電気代、通勤の車のガソリンの削減になり、残り物を処分することもなくなる。
- 参加者 環境問題について、学校で定期的に子供たち同士が考える機会を持るとよい。やがて大学生、社会人になり、世の中を動かしていく世代になるので、下の世代からその芽を育てていく環境が必要。
- 参加者 私は自転車推し。駐輪場の数はあっても、子供乗せ自転車は2台分に1台しか入れられず実態に即していない。駐輪場を現代生活にアップデートしてもらえば、もっと暮らしやすくなる。道も自転車マークが書いてあるが、青梅街道など怖くて通れない。区の方でもっと歩行者にも自転車にも優しいまちづくりを。
- 参加者 私は自転車推し。駐輪場の数はあっても、子供乗せ自転車は2台分に1台しか入れられず実態に即していない。駐輪場を現代生活にアップデートしてもらえば、もっと暮らしやすくなる。道も自転車マークが書いてあるが、青梅街道など怖くて通れない。区の方でもっと歩行者にも自転車にも優しいまちづくりを。
- 参加者 私は自転車推し。駐輪場の数はあっても、子供乗せ自転車は2台分に1台しか入れられず実態に即していない。駐輪場を現代生活にアップデートしてもらえば、もっと暮らしやすくなる。道も自転車マークが書いてあるが、青梅街道など怖くて通れない。区の方でもっと歩行者にも自転車にも優しいまちづくりを。



●参加者 食べ残しをコンポストに入れて肥料に変え、その肥料で野菜などを育てて、また食べるという「杉並食べ物サイクル」をまずは始めてみようと思う。

- 参加者 地球温暖化はコンクリートやアスファルトが増えすぎたせいだと思う。ここで土を戻していかないと緑も増えないし、食物も育たないので、土を戻せるように活動したい。
- 参加者 エネルギーに頼らず、使わない方法が断熱だと思う。杉並区で断熱を公共施設や学校、一般家庭にも取り入れたい。
- 参加者 学校新設時にエコを象徴する学校にする（例えば、木造で、校庭に木がたくさんあるとか、エネルギーを学校内で作っていて、オーガニックの給食が出る。また、子供たちへのSDGSやエコ、サステナビリティなどの教育が進んでいるなど）。
- 参加者 杉並の省エネ、CO2削減のためのテクノロジーを評価基準に加える。例えば節電のためにテクノロジーを開発して、いろんなところで使われたら、その何パーセントを杉並区が開発したかを加える評価基準があれば、企業や学校の研究推進に繋がる。
- 参加者 各家庭が電気、水道、ガスをどのくらい使ったかを毎日スマホなどで見られるものを杉並区が配信し、毎日見て減っていけば嬉しいし、ポイントが溜まると何かもらえれば頑張れる。
- 参加者 杉並サーキュラーシティ構想ということで、大きな生産を持たない杉並だからこそ、循環に徹底的にこだわる大きなビジョンを打ち出すファーストステップとしてあらゆる種類の小さな循環特区のような、ここは食料循環、ここはゴミの循環、ここは生態系循環など、いろんな種類の循環特区をつくり、スモールスタートで始められたら面白い。
- 参加者 住宅そのものがエコに対応して

いて、環境問題に特化したランク付けがされ、物件として人気が出る。そこに住んでいることで、自動的に環境問題に貢献できる仕組みがあれば広がっていく。

- 参加者 断熱の内窓、カーテンを取り付けるだけでもかなりCO2削減になる。これだけ電気が助かるという効果を見える化すれば、みんなやる気になれる。
- 参加者 都や区、事業者、区民それぞれが一体となってCO2の量を見える化し、どれくらい削減できたか自分達で分かるようにする。
- 参加者 次世代を担う若者が、今、地球規模で環境問題を自分事として捉えしっかり考えること。自分達が大人になった時にどんな社会になるのかを知らせることが大切。
- 参加者 環境問題は個人の意識が大事で、学校教育はもちろん全ての世代について意識の高まりが必要。情報発信や学校教育、地域コミュニティでの教育に取り入れていくとよい。
- 参加者 サーキュラーシティの具体例としては、野菜が肥料になってまた回る特区、ゴミに関する循環に特化した取組、その地域だけは廃油回収をより積極的に行い、それをBDFや発電で戻していく取組、生態系に特化した取組。
- 参加者 区民が借りられる畑は区内に結構あるし、環境問題に特化した小学校では、天沼小や井荻小は10年以上前から実施しており、天沼小学校は防災に特化し、太陽光パネルや風力発電もある。
- 参加者 杉並区に太陽光の屋根を増やすには、例えば町の電気屋が太陽光パネルをつくれるよう区が支援や技術指導をして、太陽光パネルを扱う電気屋が増えれば、太陽光パネルの家が増えるというような形でやれば、町の電気屋も再生する。



区民と話し合う会 聴くオフ・ミーティング



区民と話し合う会 聴くオフ・ミーティング

区長の感想（全体を）通して

世界には緊急事態という認識を持って政策をつくらせている自治体がたくさんあり、杉並区もそういう気持ちでゼロカーボンシティに取り組んでいます。

気候変動は1分1秒を争う緊急の課題であるという危機感を持ち、未来を担う子供たちとともに前向きに、楽しく取り組みながら「ゼロカーボンシティ杉並」の実現を目指していきたいと思えます。



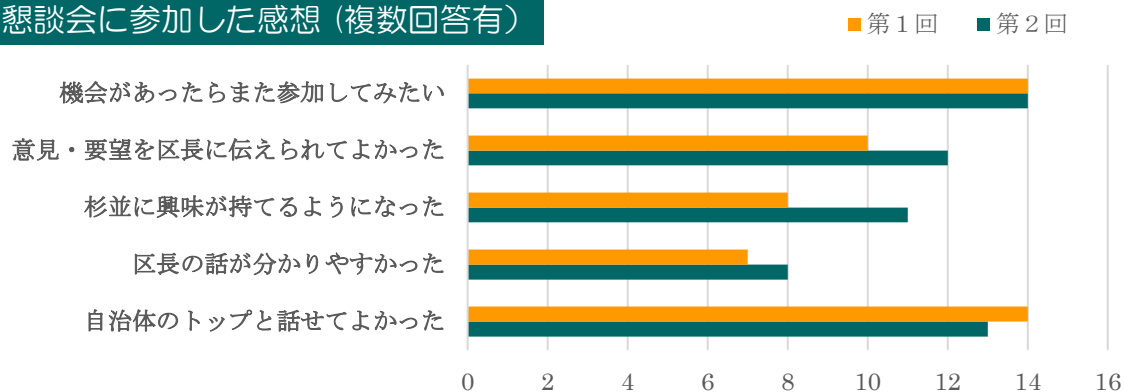
気候変動対策を所管する担当課から

今回のミーティングでは、「2050年ゼロカーボンシティ実現に向けて区民と区が一体となって取組を進めていくにはどうしていくべきか」をテーマに話し合っていました。当日は、参加者の方々の活発な意見が交わされ、例えば二酸化炭素排出量の「見える化」による環境配慮行動の動機づけの実施や、紙やプラスチック等をはじめとした資源循環の促進、子どもたち将来世代の意識を高める環境教育の充実など、たくさんのご意見やアイデアをお聞かせいただきました。

区では現在、区民参加による気候変動対策を推進するため、「杉並区気候区民会議」の開催に向けた準備を進めていますが、今回のミーティングのように区民の方々からのたくさんのお声をいただきながら区の気候変動対策に生かしていくことで、区民の方々とともに2050年ゼロカーボンシティの実現を目指してまいります。



懇談会に参加した感想（複数回答有）



令和5年10月21日開催 聴くオフ・ミーティング報告書

〈参加者〉 区民38名、区長、環境部温暖化対策担当ほか

令和5年12月 編集・発行 総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111

